

美術の窓 (111)

ダブリン、ロンドン、モスクワ

大和文華館館長 浅野 秀 剛

1月24日から2月5日まで、ダブリン、ロンドンそしてモスクワに出張した。ダブリンとロンドンはチェスター・ビーティー図書館と大英博物館の日本絵画・版画の調査で、私も含め一行4人、モスクワは3日間開催されるシンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」に参加し、講演をするためで、私一人だけの別行動となる。ダブリンは初めて、モスクワは1992年以来2回目、ロンドンは何度も訪れている馴染みの土地である。

ダブリンには24日の真夜中に到着、25、26日がまるまる調査日に当てられた。私のお目当ては画巻と絵入版本、そして浮世絵版画である。その中に、『双六絵五十三次』と題されている1巻があった(図1)。縦は17.3cmであるが、横は14mを超す長巻。東海道の宿駅名に続いて景観が描かれているという構成で、線は藍色の版であるが彩色は版と筆彩併用となっている。題名や序・跋・刊記などは一切なく、『双六絵五十三次』という題も近年の研究者が付けたものである。双六としたのは、巻の最初が「ふりはじめ 日本橋 七千五百点」、最後が「上

り 京 八千点」になっていることと、宿駅の一部に「泊」の円印があることなどによる。なるほど絵双六として遊べるようにはなっているが、遊ぶにはかなりの部分を広げなければならず、およそ現実的ではない。皆さんもご存じのように、絵双六は四角形のポスター状のものが一般的なのである。実はチェスター・ビーティー本の『双六絵五十三次』と同一のものが日本にも一点、箱根町立郷土資料館に所蔵されており、私は以前それを調査させていただいたことがある(図2)。箱根町のものはチェスター・ビーティー本のおよそ三分の二しか残っていないが、興味深いことに、チェスター・ビーティー本にはない「腕の菌形」「清書双紙」といった墨書や、朱文長方印「駅路鈴」が認められるのである。箱根町本は絵半切(えはんぎれ)として使用されたのだと思う。

絵半切というのは、一言でいえば特殊な高級便箋である。現在売られている便箋にも絵入のものや模様があしらわれているものがあるが、そういったものを連想していただきたい。『双六絵五十三次』も中央から上

部にかけては空白が多く、手紙を書こうと思えば書けるようにはなっている。しかし、全体の半分以上は絵となっていて 純粋な便箋というには躊躇される。こういったものに書かれた手紙というものも残されていないように思う。“特殊な”と言ったのはそういった意味である。同類の絵半切で有名なものに、浮世絵師の北尾政美が描いた天明5年(1785)刊の『江都名所図会』1巻があり、他にも数種類あることが報告されている。現存するものを調査していくと、どうやら普通の便箋としてではなく、俳諧の会などの特殊な用途を念頭に置いて制作されたもののようである。しかし、チェスター・ビーティー本の『双六絵五十三次』は絵半切として使われた形跡は全くない。絵双六として遊んだかどうかは分らないが、状態は非常に良い。鑑賞用に購入し、そのまま残ったものであろうか。完品を初めて見ることでできた喜びとともに疑問もまた膨らんだ。

27日の午後と28、29日は大英博物館の調査である。大英博物館では、何度も作品の調査をさせていただいたが、調査したい作品が未だ尽きない。懐の深い博物館である。今回は、主として絵入版本と広重のスケッチ帖を調査させていただいた。調査させていただいた絵入版本の中に、美術の窓(108)で言及

した大森善清の武者絵本の“なれの果て”の、『絵本武者薄』3冊(図3)があった。天保11年(1840)年の刊行であった。『絵本武者薄』の基になった善清の武者絵本『むしや薄』『矢立の杉』などの初版本が刊行されたのがおよそ元禄15、16年(1702、03)と推定されるので、絵本はそれから何度も手直しされ、およそ140年後になって最後の姿(と思われる)である3冊本に姿を変えたのである。私にとっては愛しい“なれの果て”である。元禄期の善清絵本の、140年後の姿である天保期刊の善清絵本は他には全く報告されていない。少し大袈裟で勝手な言い方を許してもらえれば、大英博物館の『絵本武者薄』は私に見つけてもらうために今の世にまで残されたのかもしれない。

大英博物館の後は、厳寒期のモスクワである。ところが、私の滞在期間、モスクワは拍子抜けするほど暖かかった。そこでも、シンポジウムの合間に作品の調査と相成ったのであるが、それについては、いつかまた書いてみたい。

モスクワからは直接関空に飛ばず、フランクフルト経由となった。この原稿は、6時間もある待ち時間を使って書いている。空港のゲートで、ノートパソコンを取り出して原稿を書いていると、ちょっとしたビジネスマンの気分である。

図1

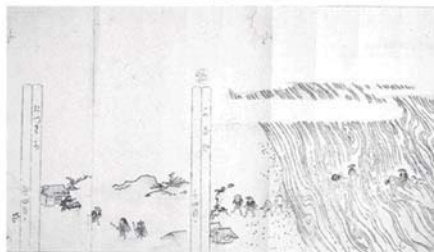


図2



図3



図1 チェスター・ビーティー図書館蔵『双六絵五十三次』より(『同館蔵、絵本絵巻解題目録』2002年、より複写)

図2 箱根町立郷土資料館蔵『双六絵五十三次』より

図3 大英博物館蔵『絵本武者薄』上巻第一図

季刊 美のたより No.169

平成22年3月10日

発行 大和文華館